

令和元年度第2四半期までの運用状況等

(平成31年4月～令和元年9月)

独立行政法人農業者年金基金は、年金資産の安全かつ効率的な運用を行っています。令和元年度第2四半期までの運用状況を「独立行政法人農業者年金基金中期計画」に基づき公表いたします。

当基金が行っています年金資産の運用においては、確定拠出型の年金制度であることから、原則、資産を時価で評価しなければならないため、金融・経済情勢等の運用環境の影響により、短期的には、運用成績が変動しマイナスになることがあります。長期的な運用により安定した運用収益を上げることが期待されます。

今後とも、安全かつ効率的な運用を徹底して参りたいと思っておりますので、皆様の御理解を賜りますようお願い申し上げます。

【参考】

独立行政法人農業者年金基金中期計画（平成30年3月27日認可）－抜粋－

2 年金資産の安全かつ効率的な運用

(4) 運用の透明性の確保

年金資産の構成割合、運用成績等については、四半期ごとにホームページで情報を公表するとともに、加入者に対して、毎年6月末日までにその前年度末現在で評価した個々の加入者に係る運用結果を通知する。

目 次

	頁
1. 令和元年度第2四半期まで（平成31年4月～令和元年9月）の運用環境について	1
2. 令和元年度第2四半期まで（平成31年4月～令和元年9月）のポートフォリオ別の運用状況 . . .	2
3. ベンチマーク・インデックスの推移	4
（参考） 用語の説明	5

1. 令和元年度第2四半期まで（平成31年4月～令和元年9月）の運用環境について

（第1四半期）

米中貿易摩擦やそれを背景とする世界的な景気減速懸念が一進一退する中、米欧における利下げ期待の高まり等を背景に、債券においては金利低下（価格上昇）圧力が働く環境にあった一方、株式においては5月は下落、6月は上昇の動きとなりました。

なお、為替については、リスク回避の動きや日米金利差縮小等を背景に円高が進行しました。

（7月）

米欧における利下げ期待の高まり、米中貿易協議再開の合意等を背景に、債券において金利はほぼ横ばい、株式においてはやや株価上昇圧力が働く環境にありました。

なお、為替については、対ドルではリスク選好の動き等を背景に円安が進行した一方、対ユーロでは欧州中央銀行（ECB）による利下げ期待の高まり等を背景に円高が進行しました。

（8月）

米中貿易摩擦激化懸念の強まりや米国において景気後退の兆しとされる逆イールドが発生したこと等を背景に、債券においては金利低下（価格上昇）圧力が、株式においては株価下落圧力が働く環境にありました。

なお、為替については、リスク回避の動き等を背景に円高が進行しました。

（9月）

9月は、特に月前半において、10月に閣僚級の貿易協議を開催することで合意したことなどによる米中貿易協議の進展期待に加え、英国のEU離脱を巡る不透明感の後退や6月から続く香港大規模デモの収束期待等を背景に、債券においては金利上昇（価格下落）圧力が、株式においては株価上昇圧力が働く環境にありました。

なお、為替については、上記を背景としたリスク選好の動き等から対ドル、対ユーロともに円安が進行しました。

2. 令和元年度第2四半期まで(平成31年4月～令和元年9月)のポートフォリオ別の運用状況

① 被保険者ポートフォリオ

令和元年度第2四半期まで(平成31年4月～令和元年9月)の被保険者及び期待者に係る資産の運用状況は、次表のとおり、令和元年9月末時価総額は2,377億80百万円となり、第2四半期までの総合収益は31億97百万円となりました。また、修正総合利回りは1.35%となりました。

(単位:百万円、%)

資産	平成30年度末 時価総額	令和元年9月末 時価総額	時価総額構成割合	第2四半期まで の総合収益	(参考) 修正総合利回り
国内債券	165,413	165,626	69.7	1,550	0.93
自家運用	66,846	65,721	27.6	210	0.32
外部運用	98,567	99,904	42.0	1,340	1.35
国内株式	27,972	29,414	12.4	332	1.16
外国債券	12,168	12,812	5.4	643	5.12
外国株式	28,639	29,313	12.3	672	2.33
短期資産	615	616	0.3	-0	-
合計	234,807	237,780	100.0	3,197	1.35

- (注) 1. 政策アセットミックスは、国内債券71% (±10%)、国内株式12% (±4%)、外国債券5% (±2%)、外国株式12% (±4%) としています(カッコ内は乖離許容幅)。
 2. 国内債券のうち自家運用(満期保有目的)については、償却原価法(定額法)を適用しています。
 3. 国内債券のうち外部運用については、金利上昇リスクに対応するために保有する短期資産を含みます。
 4. 平成30年度末時価総額は、平成30年度決算整理後の額となっています。なお、短期資産の615百万円は、決算整理前の額943百万円から被保険者危険準備金ポートフォリオへの繰入額328百万円を減算した額です。
 5. 令和元年9月末時価総額(合計)は、平成30年度末時価総額(合計)234,807百万円に、第2四半期までの受給権者ポートフォリオへの繰入額等223百万円を減算及び総合収益の3,197百万円を加算した額237,780百万円となりました。
 6. 単位未満を四捨五入しているため、合計が合わない場合があります。(以下同じ。)

(参考) 令和元年度第2四半期(令和元年7月～9月)の運用状況

(単位:百万円、%)

資産	令和元年6月末 時価総額	令和元年9月末 時価総額	時価総額構成割合	第2四半期 の総合収益	(参考) 修正総合利回り
国内債券	166,131	165,626	69.7	514	0.31
自家運用	66,677	65,721	27.6	103	0.16
外部運用	99,454	99,904	42.0	410	0.41
国内株式	27,913	29,414	12.4	979	3.47
外国債券	12,473	12,812	5.4	338	2.69
外国株式	29,102	29,313	12.3	210	0.72
短期資産	52	616	0.3	-0	-
合計	235,671	237,780	100.0	2,041	0.86

- (注) 令和元年9月末時価総額(合計)は、令和元年6月末時価総額(合計)235,671百万円に、第2四半期の追加投資額等69百万円及び総合収益の2,041百万円を加算した額237,780百万円となりました。

② 受給権者ポートフォリオ

令和元年度第2四半期まで(平成31年4月～令和元年9月)の受給権者に係る資産状況は、次表のとおりとなっており、年金給付等の原資は確保されています。

(単位:百万円)

資 産	平成30年度末 時価総額	令和元年9月末 時価総額
国内債券	71,773	72,614
短期資産	12,206	17,034
合 計	83,978	89,647

- (注) 1. 平成30年度末時価総額は、平成30年度決算整理後の額となっています。なお、短期資産の12,206百万円は、決算整理前の額12,265百万円に、受給権者危険準備金ポートフォリオへの繰入額59百万円を減算した額です。
2. 令和元年9月末時価総額の短期資産のうち14,724百万円は、マイナス利回りの国内債券を購入するのを回避するため、暫時短期資産として取り置いているものです。

③ 被保険者危険準備金ポートフォリオ及び受給権者危険準備金ポートフォリオ

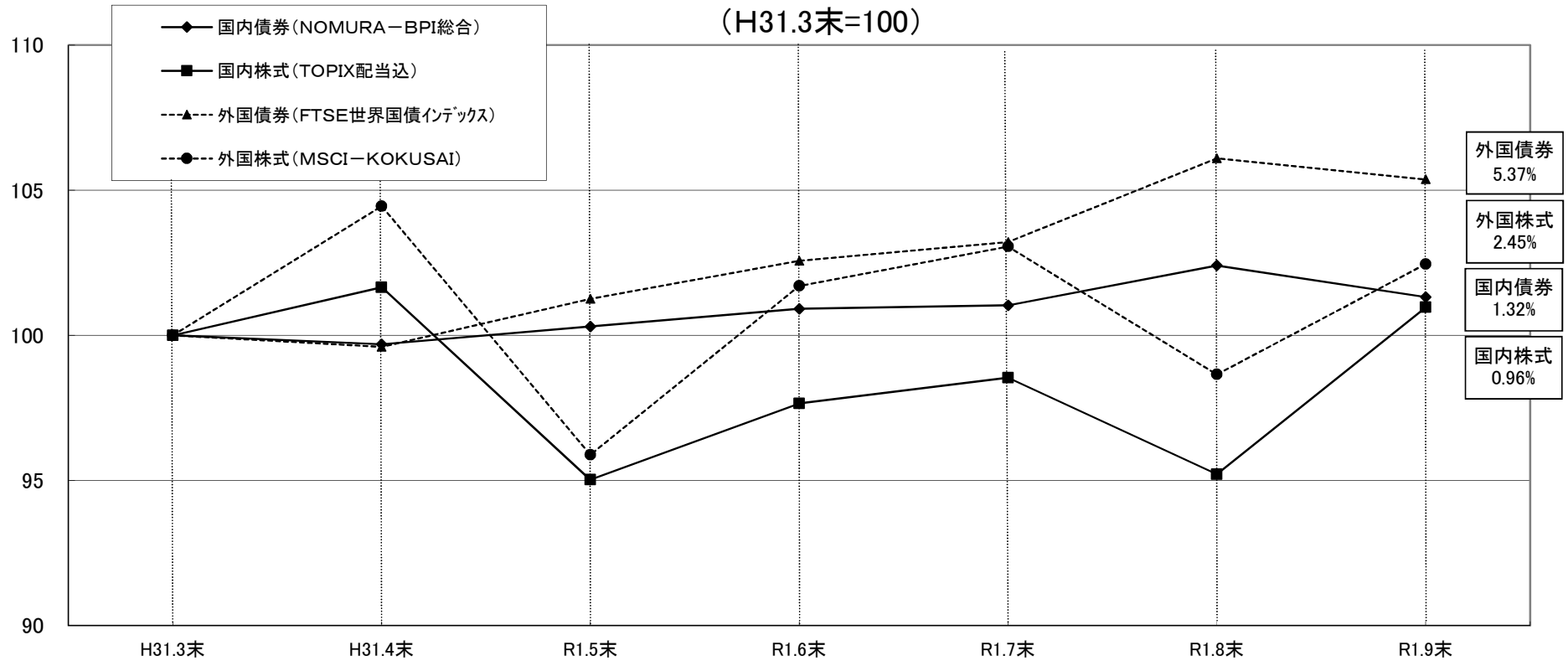
令和元年度第2四半期まで(平成31年4月～令和元年9月)の危険準備金に係る資産状況は、次表のとおりとなっています。

(単位:百万円)

ポートフォリオ	区 分	資 産	平成30年度末 時価総額	令和元年9月末 時価総額
被保険者危険準備金 ポートフォリオ	付利準備金	短期資産	7,113	7,114
	調整準備金	短期資産	2,961	2,888
	合 計		10,074	10,002
受給権者危険準備金 ポートフォリオ	調整準備金	短期資産	2,688	2,830

- (注) 平成30年度末時価総額は、平成30年度決算整理後の額となっています。なお、被保険者危険準備金ポートフォリオの短期資産の合計10,074百万円は、決算整理前の合計額9,746百万円に、被保険者ポートフォリオからの受入額328百万円を加算した額です。また、受給権者危険準備金ポートフォリオの短期資産の2,688百万円は、決算整理前の額2,629百万円に受給権者ポートフォリオからの受入額59百万円を加算した額です。

3. ベンチマーク・インデックスの推移 (H31.3末=100)



(参考) 市場インデックス

区 分	平成31年3月末	令和元年6月末	令和元年7月末	令和元年8月末	令和元年9月末
国内債券 (新発10年国債利回り)	-0.095 %	-0.165 %	-0.160 %	-0.280 %	-0.225 %
(NOMURA-BPI総合)	389.143 ポイント	392.695 ポイント	393.155 ポイント	398.496 ポイント	394.271 ポイント
国内株式 (日経225)	21,205.81 円	21,275.92 円	21,521.53 円	20,704.37 円	21,755.84 円
(TOPIX配当込)	2,395.21 ポイント	2,338.89 ポイント	2,360.18 ポイント	2,280.58 ポイント	2,418.29 ポイント
外国債券 (米国10年国債利回り)	2.406 %	2.006 %	2.015 %	1.498 %	1.666 %
(独10年国債利回り)	-0.070 %	-0.327 %	-0.440 %	-0.700 %	-0.571 %
(FTSE世界国債インデックス)	392.166 ポイント	402.232 ポイント	404.778 ポイント	416.071 ポイント	413.221 ポイント
外国株式 (NYダウ)	25,928.68 ドル	26,599.96 ドル	26,864.27 ドル	26,403.28 ドル	26,916.83 ドル
(独DAX指数)	11,526.04 ポイント	12,398.80 ポイント	12,189.04 ポイント	11,939.28 ポイント	12,428.08 ポイント
(MSCI-KOKUSAI)	3,204.497 ポイント	3,259.032 ポイント	3,302.568 ポイント	3,161.382 ポイント	3,283.113 ポイント
為替レート (対ドル)	110.69 円	107.74 円	108.58 円	106.15 円	108.08 円
(対ユーロ)	124.28 円	122.69 円	120.89 円	116.89 円	117.82 円

用語の説明

○ ポートフォリオ

資産を運用する際の保有資産の組合せのこと。また、組み合わされた運用資産全体を指すこともある(同義語 ファンド)。

○ 総合収益

利息、配当金や売買損益といった実現損益だけではなく、評価損益や未収収益を加味した収益のこと。

○ 修正総合利回り

総合収益を、運用元本に時価の概念を加味した残高で割って算出した収益率のこと。運用成績の開示に広く用いられている。

修正総合利回り = (総合収益) ÷ (運用元本平均残高 + 前期末評価損益 + 前期末未収収益)

○ ベンチマーク・インデックス

各資産の収益率を評価する基準となる指標のこと。

以下は、被保険者ポートフォリオにおけるそれぞれの資産のベンチマーク・インデックスとして、当基金が採用しているものである。

* NOMURA-BPI総合

野村証券金融工学研究センターが作成している国内債券市場の指標。国内で発行された残存1年以上の固定利付円建債(A格相当以上)から構成される。国内債券市場の代表的な指標である。

* TOPIX(配当込)

東京証券取引所が作成している国内株式市場の指標。東証一部全上場銘柄から構成される。国内株式市場の代表的な指標である。

* FTSE世界国債インデックス(除く日本、ヘッジあり、円ベース)

FTSE Fixed Income LLCが作成している外国債券市場の指標。主要各国(除く日本)が発行する国債から構成される。外国債券市場の代表的な指標である。

* MSCI-KOKUSAI(源泉税控除前、配当再投資、円換算)

MSCI Inc.が作成している外国株式市場の指標。主要各国(除く日本)の証券取引所上場銘柄から構成される。外国株式市場の代表的な指標である。